

令和6年度使用小学校用教科用図書

調査員会調査・研究報告書

令和5年7月

尾道市教科用図書調査員会

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	国 語
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①単元で身につける資質・能力を「言葉の力」として示すとともに、一年間で学習する「言葉の力」をロードマップで示すことで学びのつながりを実感できるようにしている。</p> <p>②「きせつの足音」として季節を表す言葉を示し、「言葉の広場」として項目別に分けて言葉を示し、語彙と文法に特化して整理している。</p> <p>③情報の扱い方を関連する単元の前後に「情報のとびら」として配置し「読むこと（説明文）」での学びを、「書くこと」の学習に結び付けられるように整理している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④現代社会が抱える問題を取り扱った教材や、キャリア教育の視点から言葉を使って未来を切り開いていく意義について各界の著名人のメッセージを掲載している。</p> <p>⑤「見通す」、「取り組む」、「振り返る」の3つのステップで学習の具体的な進め方が示している。</p> <p>⑥学習に入る前に、その単元の学習過程を見通すことができる。学習のふり返りの視点を、「取り組む」の「めあて」と照応するように示している。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦第2学年以上は、「読むこと」の単元と「書くこと」の単元の間、小単元「情報のとびら」を配置し、両単元を関連させる学習を設定している。</p> <p>⑧第1学年以外「季節の足音」として、季節ごとに季節の詩を掲載している。第6学年で、古典芸能について紹介している文を掲載している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑨児童が読みやすい分量の文章と写真や図が結び付けられており、内容を理解しやすくなっている。</p> <p>⑩学習の進め方とともに、思考ツールの活用やデジタルノートを示している。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑪個人の考えや思いを発表する活動は全学年で、話し合う活動は3年生以</p>

	<p>上でを系統的に展開している。</p> <p>⑫題名やあらすじに加え、本の一部を掲載しており、児童の読書意欲を高める工夫をしている。</p>
教 出	<p>第1の観点</p> <p>①学習のめあてとどのような言語活動を通じて学ぶのかを示し、目標とする力を身につけるためのポイントを短い文章で示すことで、どんな学習をして、どんな力がつくのかが分かるように整理している。</p> <p>②「言葉の文化」としてそれぞれのテーマに関わる言葉を示し、「言葉の木」として枝に分類の観点、葉に分類された言葉を示し、整理している。</p> <p>③情報の扱い方を「情報のまとめ」として巻末にまとめて示し、その巻に掲載の関連する単元やページを表記しすることで、使用場面と行き来、複数の教材で何度も活用できるように整理している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④児童が興味・関心をもちやすいように SDG s と関連した教材を取り上げている。</p> <p>⑤単元の最初に学習のめあてを明記し、教材に合った具体的な学習の進め方や例を掲載している。</p> <p>⑥指導事項と言語活動の2つの振り返りの視点を掲載している。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦目次にその単元の目標が記載されている。第3学年以上には、「読むこと」の単元の1つにおいて、教材文を読む際の視点に気付くための導入教材を配置している。</p> <p>⑧全学年「言葉の文化」として、言葉集めや詩・漢文を掲載している。古典芸能については短い文で紹介され、文と動画の QR コードを掲載している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑨写真やグラフだけでなく、二次元コードから NHK for school などの動画を視聴できるようになっている。</p> <p>⑩3 領域を教材名、単元名、身につけたい力で整理し、SDG s との関連を明記している。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑪低学年段階からの話し合い活動を展開している。</p> <p>⑫各学年に読書のテーマを設定し、付録で様々なジャンルの本を紹介している。</p>
光 村	第1の観点

①学習の流れを示したページに問いと目標を並べて示し、児童の問いを目標へとつなげることができるように整理している。

②「きせつの言葉」として季節を表す言葉を示し、「言葉のたから箱」として項目別に分けて言葉を示し、整理している。

③情報の扱い方を関連する単元の前後に「情報」として配置し、各領域の学習活動を関連させることができるように整理している。

第2の観点

④中学年までは、児童が日常生活の中で直面しやすい問題場面・問題状況を教材として取り上げているが、高学年では、多様性や環境など実社会と結びついた教材を設定している。

⑤子どもの問いから学びが始まる学習展開を設定している。

⑥「知る」「読む・書く・話す聞く」「つなぐ」の3つの振り返りの視点を掲載している。

第3の観点

⑦目次にその単元の目標が記載されている。第3学年以上には、「読むこと」の単元の1つにおいて、教材文を読む際の視点に気付くための導入教材〔練習〕を配置している。

⑧第1学年以外「季節の言葉」として、季節の歌や詩、行事について掲載している。第6学年では、古典に関する教材を数回に分けて掲載している。

第4の観点

⑨文章だけでは分かりにくい事柄について、写真やグラフ等で説明している。

⑩領域ごとに学習の進め方を整理し、示している。

第5の観点

⑪低学年段階から役割を意識したグループ討議が展開されている。二次元コードでモデルとなる話し合い方を動画で視聴することができる。

⑫本の探し方・選び方に関する内容が掲載されており、多読につながる内容になっている。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	書 写
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①目標を「見つけよう」として示しており、その目標を達成させるために、おさえるべき事項を掲載している。</p> <p>②最初の单元では、書きやすい姿勢（足・背すじ・手）を意識させるために、リズムカルな標語で色を使って分かりやすく示している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③「見つけよう」では、教材を比較し、気づいたことを生かして書く構成になっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>④書写学習の基礎・基本的な事項を確実に習得できるよう、学年の発達段階に応じて重点化しながら系統的に单元が配列している。</p> <p>⑤伝統的な言語文化としての文字の理解に関する内容が全学年で示されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑥2学年～6学年に「書写のかぎ」が掲載されており、児童が学習事項のポイントが理解できるよう配慮されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑦日常生活や学校生活に役立つ教材を取り上げて、具体的にイメージしながら学べるよう工夫している。</p>
教 出	<p>第1の観点</p> <p>①目標が「めあて」として示されており、色つきの太字で示されている。</p> <p>②最初の单元では、「はじめの学習」として、用具の準備や姿勢、片付け方について1ページずつ掲載されていて、学習の進め方が確認できるようになっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③「考えよう」ではめあてに沿った文字の書き方を考えるための視点が示されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>④書写で習得した力を教科横断的な学習活動や日常生活に活用できるように「レッツトライ」「書いて伝え合おう」の单元で示されている。</p>

	<p>⑤伝統的な言語文化としての文字の理解に関する内容が全学年で示されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑥「ふり返ろう」が掲載されており、問いかけによって自己評価ができるようになっている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑦「レッツ・トライ」のページが掲載されており、書写で学習したことを各教科で生かせるようになっている。</p>
光 村	<p>第1の観点</p> <p>①目標に「どんな関係があるのだろうか。」「理由を合わせて考えよう」など、筆順や字形について深く考えさせる目標を示している。</p> <p>②最初の単元では、「タブレットを活用しよう」のページが掲載されており、QRコードの活用方法を写真や資料で示している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③学習の進め方「考えよう」では、話し合いの視点が示され、対話的な学びを通して学習を深められるような構成になっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>④1教材1目標で示され、学習を通して身に着ける力を教材名として示している。</p> <p>⑤伝統的な言語文化としての文字の理解に関する内容が全学年で示している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑥「たいせつ」が掲載されており、児童が言語と図版によってポイントが理解できるよう配慮されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑦学習活動に必然性をもたせるために、国語科教科書と連動した教材を設定し、国語と一体的に扱う工夫をしている。</p> <p>6年教科書には、「書写ブック」がついており、1～6年生までに学習したことが日常生活に広げられることがまとめられている。</p>

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①1時間ごとに、学習問題が「つかむ」「調べる」「まとめる」の学習過程が示されている。</p> <p>②教科書の巻頭において、地図帳の活用の仕方を示している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③単元の導入において、単元の内容を身に着けさせるための学習の仕方が示されている。</p> <p>④毎時間ごとに「まなびのポイント」を示し、考える視点を明確にしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤選択教材の数を絞り、視点を明確にした学習を進めることができるようにしている。</p> <p>⑥風水害から身を守る点から、「マイタイムライン」を作成する単元末の活動がある。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦QR コンテンツでは、見通しをもって学習が進められ、実感を伴った理解を促している。</p> <p>⑧「まなびのポイント」コーナーでは、そのページで何を話し合うべきか、どんなことをノートにまとめるべきかが示されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨学習内容を観点ごとに新聞等にまとめさせる。</p> <p>⑩「つかむ→調べる→まとめる→いかす」といった探求の基本的な進め方を示している。キャラクターのセリフを目印として（位置や広がり、時間、かかわり、比較・分類・総合・関連付け）の社会科の見方・考え方を紹介している。</p>
教 出	<p>第1の観点</p> <p>①1時間ごとに、「つかむ」「調べる」「まとめる」の学習過程のうち、本時はどの過程であるかが示されている。</p> <p>②教科書巻末で見開きを使い、児童の言葉や、ナンバーリングによって地図帳の活用方法について示している。</p> <p>第2の観点</p>

	<p>③単元の導入において、児童が学習の流れを理解できるようにするために、活動の流れが示されている。</p> <p>④毎時間ごとに「活動」の流れや「学びの手引き」を示し、児童に学習の見通しを立てやすくしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤選択教材を多く設け、児童及び地域の実態に応じた学習を行うことができるようにしている。</p> <p>⑥地震や津波の災害から、災害に備える際に自分たちに何ができるか、大切だと思った言葉を使って標語を書かせる活動のページがある。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦QR コンテンツでは、学習内容をまとめることができ、実感を伴った理解を促している。</p> <p>⑧「次につなげよう」コーナーでは、既習事項を次の課題につなげて考えさせる問いの文が用いられている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨学習内容を観点ごとに図等を使って整理させる。</p> <p>⑩「つかむ→調べる→まとめる→つなげる」を繰り返して進めていくことを示している。また、学習の進め方を振り返るコーナーを設け、「学習問題の作り方」「学習計画の立て方」「調べ方」など、学び方自体についても振り返ることができるようにしている。</p>
日 文	<p>第1の観点</p> <p>①1時間ごとに、本時の問いを記載している。</p> <p>②教科書巻末において、児童の発言を通しながら、2つの項目に分けて地図帳の見方を説明している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③単元の導入において、単元を通す学び方に興味関心をもつことができるように、学習を深める具体的な学び方・調べ方について書かれている。</p> <p>④単元内に「見方・考え方」が示されており、単元内で付けさせたい力が明確化されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤選択教材を設け、児童の興味・関心に即した学習を行うことができるようにしている。</p> <p>⑥災害に備え、自分に出来る事をスライドにまとめさせたり、ハザードマップを作成する活動ページがある。</p> <p>第4の観点</p>

⑦QR コンテンツでは、社会的な見方・考え方を働かせながら、見通しをもって学習が進められ、実感を伴った理解を促している。

⑧「見方・考え方」のコーナーでは「時間・空間・関係」に視点をあて、何に着目して調べるとよいかを示されている。

第5の観点

⑨学習内容を観点ごとに表に整理させる。

⑩タブレットを使って発表する活動をきっかけに、学習をふり返って話し合う場面を取り上げている。そこから新たな課題を設定し、単元が展開していけるようにしている。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会（地図）
-----	---------

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①地図帳の使い方では、学習の案内役のキャラクターを活用し学んでいくという方法をとっている。</p> <p>②国際理解に関しては、巻頭で、世界各地の名所や名物、各国の挨拶「ありがとう」をそれぞれイラストと、一部の英語とともに紹介している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③巻頭ページの世界地図と日本地図を示す際に、国ごとや都道府県ごとの特産物・動物・文化等を記載し、児童の学習意欲を高めている。</p> <p>④索引では、それぞれの項目を種類ごとに2色の色と記号を用いて分けている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤世界の統計資料を紹介する項目で、統計表に加えて「オリンピックとワールドカップ」と「世界の州とおもな海洋の広さ」について記載している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑥日本全図は、巻頭や巻末、それぞれの掲載ページにおいて、都道府県及び地域別に、有名なもの、日本とそのまわり、地形、気候、産業、交通、都市、歴史、文化、自然災害の項目ごとに示されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑦日本の歴史とその当時の世界の情勢を関連付けながら調べることができるようになっている。歴史上、世界との関わりがあったできごとを当時の世界の勢力図を用いて、世界の歴史と日本の歴史をつなげ、地理的な視点でとらえられるようにしている。</p> <p>⑧「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」というコーナーを設けており、学習内容を表現する活動につながる問いが示されている。</p>
帝 国	<p>第1の観点</p> <p>①地図帳の使い方を問題解決的に掲載し、地図の見方では色分けをして示している。</p> <p>②国際理解に関しては、巻頭で、世界各地の名所や名物、各国の挨拶「こんにちは」、盛んなスポーツ等をそれぞれイラストや英語とともに</p>

紹介している。

第2の観点

③巻頭ページの世界地図と日本地図を示す際に、世界地図では「その国の有名なもの」・「日本が多く輸入するもの」について記載し、日本地図では「それぞれの都道府県の有名なもの」を記載し、児童の学習意欲を高めている。

④索引は、それぞれの項目を5色の色と、6種の記号で記されている。
(世界は3色)

第3の観点

⑤世界の統計資料を紹介する項目で、統計表に加えて「日本の農水産物・資源の輸入先」について記載している。

第4の観点

⑥日本全図については巻頭や巻末、それぞれの掲載ページにおいて、都道府県及び地方区分、有名なもの、日本の領土とそのまわり、地形、気温、自然災害、土地利用、産業、歴史、日本の世界遺産の項目ごとに示されている。

第5の観点

⑦地図と歴史を関連付けて調べることができるようになっている。地理的な視点で歴史をとらえることができ、特に明治元年と現在の土地利用の様子を比較して見るができるようになっている。

⑧「地図マスターへの道」というコーナーを設けており、調べたり、考えたりしたことを説明したり・発表したりする方法が示されている。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	算 数
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①単元はじめに、児童同士の対話によって目標を設定するようになっている。また、学習の最後に、次の学習につながる疑問が示されており、今後の学習の見通しがもてるようになっている。</p> <p>②単元末に適用問題が設定されており、「算数の目」では、その単元に関わる「見方・考え方」を使うようになっている。問題はタブレット使用でき、答え合わせや考え方も提示されるようになっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③問題場面を表す場合に、言葉と式で説明をしてあり、論理的な思考の流れが分かりやすくなっている。</p> <p>④「今日のふかい学び」としてマイノートを学習に生かそうとまとめてあり、問題を解決していく自分の思考を振り返ることができるようにしている。また、その考えの視点も示している。</p> <p>⑤「考える力をのばそう」の単元で、多様な考え方ができるような内容になっている。また、「学んだことを使おう」の単元では、学習したことをさらに深めていくことができる内容になっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥第2学年以上の巻末に単元末と類似する補充の問題を設定し、基本的な内容と少し進んだ内容の難易度別の構成にしている。単元のまとめとして練習問題、補充問題、追加問題（デジタル）を設定している。</p> <p>⑦第6学年のまとめの後に「できるようになったこと」「次に考えてみたいこと」があり、その中で中学校との関連が書かれている。また、単元後に「卒業旅行」の中で中学校と関連のある内容に触れている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧実物の写真を使用し、実生活との関連を意識しやすくしている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨「今日の深い学び」を設定し、学習過程とともに側注として「数学的な見方・考え方」など話し合い活動を進めるためのヒントが書かれている。それをもとに説明の活動が展開できるようになっている。</p> <p>⑩「算数マイノートをつくろう」「算数マイノートを学習に生かそう」では、ノートの書き方のポイント、順序を例に挙げて紹介している。1</p>

	<p>年生からノート例の紹介がある。</p>
<p>大日本</p>	<p>第1の観点</p> <p>①児童にとって身近に感じる日常場面を取り上げて疑問を引き出し、めあてを設定している。学習の最後に振り返りの視点の記述があり、児童への支援となっている。</p> <p>②単元末の練習問題の中に「見方・考え方をたしかめよう」の問題があり、その単元での見方・考え方を活用して解決できる問題を設定している。単元後に「学習のサポート」があり、単元を振り返りたいときに見る動画がある。</p> <p>第2の観点</p> <p>③日常生活の中にある問題場面を取り上げており、児童が意欲的に学習できる内容になっている。また、実際の写真を取り上げており、考え進めていくことができるようになっている。</p> <p>④「見方・考え方をたしかめよう」の中で、学習したことを元に、新しい学習を進めていくことができるようになっている。大切な見方・考え方を振り返ることにより、自分で考え進めていくようになっている。</p> <p>⑤第3学年「算数たまたまばこ」の中で、一日の場面をストーリー仕立てで示しており、計算場面に立ち止まって考えることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥第2～6学年は全1巻で構成してあり、単元の前後のつながりや、他学年とのつながりを目次や特設ページの中で明示している。巻末問題の解答はQRコードによってインターネット上で見られるようにしている。</p> <p>⑦第6学年のまとめの問題では、中学校と関わる内容については「中学への準備」と明記している。また、「数学の世界へ」の中で中学校と関連ある内容の問題を取り扱っている。さらに「中学校の数学ではこんなことを学ぶよ」もある。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧イラストや写真は、問題の意味を理解させるために身近なものを扱っている。また、具体物から抽象へと表現方法が段階的に提示されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨「算数の学び方」を設定し、学習の流れが示されている。考え方の図が示されている。また教科書の巻頭に「となりどうしで」「グループで」「クラスで」と場面に応じた話し合いの方法が示されている。</p>

	<p>⑩「算数まなびナビ」（ノート書き方の例）では、ノート書き方のポイントを例に挙げて紹介している。1年生からノート例の紹介がある。振り返りの中に、次に考えてみたいことの例示がある。</p>
<p>学 図</p>	<p>第1の観点</p> <p>①日常生活場面からめあてを設定している。学習の最後に、次の学習につながる疑問が示されており、今後の学習の見通しがもてるようになっている。</p> <p>②練習問題も単元末問題も充実している。単元末には、基礎問題、発展問題が設定されている。振り返りのページでは、その単元で大切な「見方・考え方」を改めて提示し、問題解決できるよう設定している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③「式と計算」では生活場面を取り上げており、自らの経験と関連付けやすくなっている。また、漫画による展開で、問題場면을イメージしやすくなっている。</p> <p>④「考えモンスターでふりかえろう」では、いろいろな図形の面積も求め方がわかる形にかえることで面積を求めていくことができるようにしている。</p> <p>⑤「なるほど算数」では、身近なマークは線対称や点対称を用いて作られているものもあることに気づき、日常生活のものを振り返ることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥巻末は基本的な内容の定着が図れるような補充問題と発展的な問題構成にしている。理解が困難な内容については単元を分割し、さらに指導学期を分けて定着が図れるようにしている。</p> <p>⑦「もっと算数」の補充問題の9「円の面積をふかめよう」で中学校の学習とのつながりを明記している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧単元の導入は、日常生活と関連する場面を設定し、イメージしやすいようなイラストで表示され、児童の興味・関心を促すようにされている。また、1時間の学習のまとめが分かりやすく示されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨「みんなと学ぼう 算数の学び方」という巻頭ページで「考えたいな」「表したいな」「知りたいな」「調べたいな」という学習の流れが示されており、それにそって設問がある。</p> <p>⑩「考えるノート」「まとめるノート」では、ノート書き方のポイントを説明している。「まとめるノート」は、下巻では図を使って説明す</p>

	<p>るためのノートの工夫が例示されている。</p>
教 出	<p>第1の観点</p> <p>①日常生活場面を取り上げ、めあてを設定している。学習の終末には、次の学習につながる疑問が示されており、今後の学習の見通しがもてるようになっている。</p> <p>②単元末に「ふりかえろう」「たしかめよう」が設定されており、単元での見方・考え方を振り返ってから問題に向かうようになっており、丁寧に指導にあたれるようになっている。問題量も充実している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③「買い方を式に表そう」では、2つの店での品物の買い物をした場合での問題場面を取り上げ、比較により答えは同じでも式の表し方が違うことを捉えることができるようにしている。</p> <p>④「学習の手引」の中では、友だちのノートを見てみよう（友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう）として、視点を明確にして自ら考え進めていくことができるようにしている。</p> <p>⑤「算数ワールド」では、模造紙に書いた原図を拡大図にするために、計算や対応する点の取り方ができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥他教科や学校の活動と関連した題材を扱い、必要感を感じられるようにしている。複数単元・領域のまとめりごとにレディネス問題や復習問題を設定している。</p> <p>⑦第6学年のまとめのあとの「数学のとびら」の中で中学校に係る内容を扱い「つづきは中学校で・・・」の中に中学校で学ぶことが触れられている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧作業的・体験的な活動の場面では、写真を用いて活動内容を想像しやすくしている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨「学習の進め方」を設定し、説明し合うための学習過程が示されている。いくつかの考え方を例示し、図から式、式から考え方へなど多様な考え方ができ、説明する活動が展開できるようになっている。</p> <p>⑩「友だちのノートを見てみよう」では、ノートの書き方のポイントが例示されている。友達の考えからの気付きの記入例が例示されている。</p>
啓林館	<p>第1の観点</p> <p>①導入時に、児童にとって身近に感じる日常生活場面を示し、単元全体のめあてを設定している。</p>

	<p>②単元末に「れんしゅう」「学びのまとめ」「ふくしゅう」が設定されており、易しい問題から難しい問題に挑戦できるようになっている。単元末問題では、タブレットを使用できるようになっている。巻末の学びのサポートで単元前の準備問題が設定されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③「これからの学習のめあて」が示してあり、問題意識をもって立式したり計算の順序を考えたりすることができるようにしている。</p> <p>④「台形の面積」の求め方について、3通りの異なるやり方を「分ける・2つに合わせる・変形」の言葉で示すことにより、考えの道筋が分かりやすくなっている。</p> <p>⑤「学びを生かそう」では、切り上げや切り捨てを使って考えたり、見積もりの工夫を考えたりすることができるようにしている。また、言葉と計算でどのように見積もったのか説明できるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥新しい演算を学習した後に、適切な演算を決定し根拠を説明する活用単元を構成している。巻中に学期末に取り組む復習問題、巻末に単元前に行う準備問題と復習問題を設置している。</p> <p>⑦第6学年のまとめの各領域のまとめの最後に、「数学のとびら」があり、中学校との内容の関連について触れられている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧操作活動では、写真を用いているので活動内容を想像しやすく、学習意欲を高めることができるようにしている。デジタルコンテンツには、アニメーションに加え、誤答の多い問題も扱われている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨「学習の進め方」を設定し、それに沿って設問がある。また、巻頭に「みんなで話し合おう」「算数で使いたい考えの進め方」が示されている。</p> <p>⑩2年生からノート指導がある。巻頭に「算数ノートをつくろう」のページがある。</p>
日 文	<p>第1の観点</p> <p>①日常生活場面からの疑問を踏まえ、めあてを設定している。</p> <p>②単元末には基礎的な問題とその単元の見方・考え方を使って解決する問題になっている。単元前には、その単元に関わる既習事項を扱うページが設定されており、スムーズに導入できるようになっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③テープ図を使って長さを書き込んだり、長さを写しとったりして比べ</p>

る方法を考えていくことができるようにしている。

④「自分でみんなで」では、見方、考え方の中で、課題解決の流れを示し、学び合いの視点を示すことにより、どんな工夫をしているの説明できるようにしている。

⑤「算数ジャンプ」では、他教科との関連を示し、知りたい数量を計算で求めることができるようにしている。

第3の観点

⑥低学年は単元を分散的に構成し、同じ内容が長い期間続かないような配列にしている。高学年では関連する内容をまとめた配列にしている。各学年で、早熟に時間を要する内容は、早期に学習するようにしている。

⑦第6学年のまとめの後の「マテマランドを探検しよう！」の中で中学校との内容の関連が触れられている。「中学校へつながる学習」というマークが中学校と関連する内容を扱うときについている。

第4の観点

⑧実物の写真を使用しているため、学びと日常生活とを関連させやすくしている。また、1時間の学習のまとめが分かりやすく示されている。

第5の観点

⑨「学び方ガイド」を設定し、説明し合うための学習過程が示されている。折り込みページに、考え方の視点が示されており、それを使って説明する活動が展開できるようになっている。

⑩1年生から「さんすうノートをつくろう」を設け、ノートをまとめることの意義や、書き方の例を示している。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	理科
-----	----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①問題を掴むための活動を呼びかけの形で提示している。対話しているイラスト等を用いて、学習のめあてや視点を示している。学習内容の定着を図る「たしかめよう」を設けている。</p> <p>②学習内容に関わっている人に注目して、実生活・実社会に関連付けられている内容のコーナーを掲載している。単元末問題で日常生活での現象を取り上げ、説明している。</p> <p>③準備物の記載がある。番号で手順を示し、写真や図等を用いて説明している。器具の使い方を巻末に示し、安全に対して配慮が必要な箇所にマークを付け、意味や対処の仕方を赤文字で示している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④導入部分において単元の学習内容や学習課題を想起しやすくするための活動を取り入れている。</p> <p>⑤問題解決の流れがひと目で分かるように示されたレイアウトになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥巻頭に「理科の学び方」として、問題解決の流れと学習のポイントをマークを用いながら提示されている。</p> <p>⑦単元外の内容を取り上げた「理科の世界 探検部」のコーナーで現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容を扱っている。また、巻末の「理科とプログラミング」のページでプログラミング学習の内容を扱っている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧写真のサイズが大きく、変化や特徴等を細かく観察できるように工夫されている。また、ICTを活用した学習活動を選択できるように、QRコンテンツを提示している。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨考察の視点が書かれている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。</p> <p>⑩児童の対話を例示している箇所がある。巻末に発表や話し合いの際の留意点を示している。結果をどのように表現するのか例示されている。</p>

	<p>単元ごとに分かったことが示してあり、自分でまとめる際のヒントとなっている。また、その中に自分の言葉で説明する部分がある。</p>
大日本	<p>第1の観点</p> <p>①日常の事象・現象の写真や動画を示して問題を見出させ、キャラクターが話し合う形で気づきやポイントを示している。学習内容を定着させるための「確かめよう」等を設け、単元で身につけた学びを文章で表記している。</p> <p>②学習内容が実生活と関連した内容のコーナーを掲載している。また中学で学ぶ発展した学習内容を掲載している。単元末の問題で、日常の現象を取り上げて説明させている。</p> <p>③準備物の記載はないが2次元コードで示している。番号や図などで手順を示している。安全に配慮が必要なところに赤文字で「注意」の記述をし、巻末に器具の使い方などを記している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④導入部分において自分たちの生活と学習内容を結びつけやすいように、日常生活の写真やイラストを活用している。</p> <p>⑤学習につながる知識・経験が、単元はじめの活動によって、全児童に提供される学習の流れになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥巻頭に「理科の学び方」として、問題解決の流れと学習のポイントの提示がされている。</p> <p>⑦単元外の内容を取り上げた「りかのたまてばこ」のコーナーで現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容を取り扱っている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧文字のサイズを大きくしたり、要点を強調したりして読みやすい工夫がされている。また、プログラミング学習と防災学習を関連付けた内容を扱っている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨考察の視点が書かれている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。</p> <p>⑩学習過程において、机を挟んで話し合う形で児童の対話を示している箇所がある。結果をどのように表現するのか例示されている。単元ごとに自分の言葉で説明する部分がある。</p>
学 図	<p>第1の観点</p> <p>①日常の事物・現象を写真や動画で示し、キャラクターの会話の気づきから問題を見出させている。育成すべき資質・能力を「理科モンスター</p>

	<p>一」として明記している。学習内容の定着を図るためのふりかえりや単元でできるようになったことの例を示している。</p> <p>②学習内容が仕事や生活に生かされている様子を掲載している。特に「やってみよう」で、日常生活での現象を取り上げ、説明させている。</p> <p>③準備物の記載があり、番号で手順を示し、写真や図等を用いて説明している。安全に対して配慮が必要な箇所に、「注意」マークを付け、意味や対処の仕方を赤文字で示し、器具の使い方を巻末に記載している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④導入部分において単元で身につく力を提示し、学習展開や学習のゴールをイメージしやすいようにしている。</p> <p>⑤課題解決に必要な力を表すキャラクターがおり、問題にアプローチする方法が示されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥巻頭に「科学の芽を育てよう」と題して、学習の中で働かせたい「見方・考え方」を示している。</p> <p>⑦単元外の内容を取り上げた「もっとしりたい」のコーナーで現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容を扱っている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧写真が明瞭で、特徴を見出しやすくしたり、比較をしやすくしたりしている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨考察の視点が書かれている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。それに加え、事象を解釈した記述がされている。</p> <p>⑩巻末に説明の際の留意点を示している。結果・考察等、どのように表現するのか例示されている。単元ごとに「ふりかえろう」があり、活用で事象の説明をさせる部分がある。</p>
教 出	<p>第1の観点</p> <p>①事象を提示して問題を見出させ、「見方のカギ」「考え方のカギ」を明記して、学習の見通しを持てるようにしている。「学習前」「学習後」の考えの変化に注目させることで学習内容の定着を目指している。</p> <p>②学習内容が日常生活や実社会と関連していることを意識するコーナーを掲載している。単元末の問題の最終問題が活用の内容になっており、現象を説明させている。</p> <p>③準備物の記載があり、番号と矢印で手順を示し写真や図等を用いて説明している。</p>

	<p>安全に配慮が必要なところに、「危険」「注意」マークを付け、対処の仕方を赤文字で示し、器具の使い方は巻末に記載している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④導入部分において既習事項を確認したり、上の学年にどのように繋がるか想起しやすいようにしたりしている。</p> <p>⑤児童同士の話し合いの場面、教師と児童の話し合いの場面があり、気付かせたい内容と、教える内容が示されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥巻頭に「学習の進め方」と「ノートのとおり方」を提示している。また、「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」と題し、話型を例示している。</p> <p>⑦単元外の内容を取り上げた「科学のまど」のコーナーで現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容を取り扱っている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧観察ノートや、実験の記録の仕方の例を提示し、どのように整理していくかわかりやすいようにしている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨考察の視点が書かれている。予想を元に考察をする。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。</p> <p>⑩巻頭に説明の際の留意点を示している。予想・計画等の表現の例示がある。単元ごとに「ふり返ろう」があり、自分でまとめる際のヒントとなっている。また、分かったことから日常の事象を説明する部分がある。</p>
啓林館	<p>第1の観点</p> <p>①下学年の既習事項や日常の事象などから問題を提示している。「ふり返ろうまとめノート」で学習内容のまとめを示し、学習内容の定着を図るため「たしかめよう」等を設けている。</p> <p>②学習内容が実生活・実社会に関連付けられている内容をコーナーに掲載している。</p> <p>単元末に「活用しよう」を設け、日常生活での現象を取り上げ、説明させている。</p> <p>③準備物の記載があり、番号と点線で手順を示し写真や図等を用いて説明している。初めて使う器具については同ページに記載している。安全に対して配慮が必要なところに「注意」「かん気」や「やけど」等のマークを付け赤文字で示している。</p> <p>第2の観点</p>

④導入部分において既習事項の図や写真を明記し、既習事項から新たな課題を見出しやすくしている。

⑤注目する視点に気付かせるために、児童の話し合いの内容例がふきだしになっていて、さらにその一部に下線が引かれている。

第3の観点

⑥巻頭に「理科の学び方」として、問題解決の流れと学習のポイントの例示がされている。また、季節と関係性を重視したり、同じ領域区分の単元間で関連があるもの同士を続けて学習したりする単元配列になっている。

⑦「くらしとリンク」のコーナーで、現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容を取り扱ったり、プログラミング学習の内容を扱ったりしている。

第4の観点

⑧これまでに学習した大切なことを振り返る「まとめノート」を提示し、学習内容を振り返りやすいようにしている。

第5の観点

⑨考察の視点が書かれている。関連付けられた結論・比較に基づく特徴・既習の内容との比較を用いた記述がされている。

⑩巻末に話し合いの留意点を示している。結果等をどのように表現するのか例示されている。単元ごとに「ふり返ろう まとめノート」があり、自分でまとめる際のヒントとなっている。また、「たしかめよう」では、学んだことを使って説明する学習がある。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	生活
-----	----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>① スタートカリキュラムを意識した単元構成がみられる。</p> <p>② 保護者とともに学ぶことができる記述がある。</p> <p>③ 自分の成長をまとめる方法をたくさん掲載している。大きくわかりやすく示してあるので考えやすい。</p> <p>④ 「やくそく」コーナーを設け、活動で必要なきまりや安全について知らせている。</p> <p>第2の観点</p> <p>⑤ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が、写真やイラストで具体化されている。</p> <p>⑥ 表現したりまとめをしたりする際のシートの書き方が示されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦ 季節の生き物に関する単元は分量が多い。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧ 「やくそく」の欄を設け、活動を通して身に付ける習慣や技能を示している。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨ 単元末に伝え合う活動が設定され、体験活動と表現、交流する活動が一体的に扱われている。</p>
大日本	<p>第1の観点</p> <p>① 活動や体験を通して気付かせたいことが児童のつぶやきとして吹き出しに書かれている。</p> <p>② 地域で生活したり働いたりしている人々とかかわることに意欲を持てる活動を設定している。</p> <p>③ カードの活用による自分の成長の振り返り方が掲載されている。</p> <p>④ 「がくしゅうどうぐぼこ」として、交通ルールやマナー、防災上の注意点が掲載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>⑤ スタートカリキュラムを意識し、幼稚園や保育園、こども園と生活</p>

	<p>を比較するページがある。</p> <p>⑥ 発達段階に合わせたワークシートの例が掲載されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦ 季節を意識させる単元配列と目次の工夫がされている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧ QRコードが多くあり、活動イメージや約束事を確認できる。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨ 発表方法について多様に紹介されている。</p>
学 図	<p>第1の観点</p> <p>① 飼育活動が充実している。</p> <p>② 町について学習する単元と地域について学習する単元に分かれており、人に着目しやすい。</p> <p>③ 上下巻の両方に自分の成長を感じることができる単元がある。</p> <p>④ 活動の場面では、「やくそく」という項目があり、気をつけることを確認することができる。</p> <p>第2の観点</p> <p>⑤ 単元の導入では今までの生活経験を想起させる場が設定されている。また、終末では、これから学習を深めたり、自分の生活と結びけたりできるようになっている。</p> <p>⑥ ワークシートを書いた時の気持ちを表現する場面や素材との対話の場面が設定されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦ 単元の掲載順が、学習する時系列順ではなく単元の内容ごとに構成されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧ 4人のキャラクターとともに学習が進んでいく。単元ごとにメインキャラクターが設定されていて、気付きや疑問をつぶやいている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨ 様々な発表方法が紹介されている。</p>

<p>教 出</p>	<p>第1の観点</p> <p>① 写真、イラストが多い。</p> <p>② 様々な人と関わることを意識したイラストが提示されている。</p> <p>③ 植物の成長などが比較しやすいように、年間の様子が掲載されている。</p> <p>④ 実生活に結びつく（活かせる）ような写真やイラストが提示してある。</p> <p>第2の観点</p> <p>⑤ 入学後の生活がイメージできる写真がいくつも提示されている。</p> <p>⑥ 単元の終わりには、かならず振り返る手段が写真やイラストともに提示してある。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦ （上）では就学前，（下）では中学年への接続を考慮した単元配列になっている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧ 学びを促すための動画が小見出しとともに提示されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨ 相手にわかりやすく伝えるための具体的な姿（タブレットを使うなど）が写真やイラストで提示されている。</p>
<p>光 村</p>	<p>第1の観点</p> <p>① 季節ごとに分けて、植物や昆虫、木の実の写真があり、比べることができる。</p> <p>② 地域の人（園児）と関わる場面が設定されている。</p> <p>③ 学びを振り返る活動が設定されている。</p> <p>④ コーナーやマークが多くあり、安全面や注意喚気がされている。</p> <p>第2の観点</p> <p>⑤ 児童が学校生活に興味を持ち、安心して小学校生活を始められるよう内容が設定されている。</p> <p>⑥ 写真や小見出しの言葉を効果的に配置し，導入，展開，振り返りまでを児童の思考に沿って示している。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦ 絵や写真，短い言葉で，架け橋期を支えるスタートカリキュラムや中学年への接続を意識した展開となっている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧ マークで動画の種類が見分けられる。</p> <p>第5の観点</p>

	<p>⑨ まとめかたの紹介で、他社にはない写真のスライドショーが紹介されている。</p>
啓林館	<p>第1の観点</p> <p>① 児童が考えたくなるような問いやクイズの掲載がある。大きさを具体化したり比較させたりすることで本当の大きさを写真で示したりしている。</p> <p>② 地域の人々のセリフやインタビューに活かせるセリフがある。</p> <p>③ 「できるかな」「できたかな」の記載がある。</p> <p>④ 「がくしゅうずかん」の記載がある。</p> <p>第2の観点</p> <p>⑤ スタートアップカリキュラムに沿って、幼児期の経験を発揮しながら楽しく学校生活が始められるよう内容が設定されている。</p> <p>⑥ 他教科で学んだことを生かしながら、表現活動や振り返りに取り組めるよう設定されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦ 5月ごろまでの入門期の単元の分量が多い。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧ 見開き2ページの左上に、単元導入の「わくわく」、主な活動の「いきいき」、表現活動の「ぐんぐん」の3段階のマークで単元の流れを示している。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨ 多様な表現活動が示され、そこで表現されたことを各単元末に伝え合う場を設けている。</p>

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	音 楽
-----	-----

発行者	総合的な所見
教 出	<p>第1の観点</p> <p>①入門期における「はく」と「リズム」の示し方の学習例が具体的である。自分たちで作成する手順が示されている。</p> <p>②歌詞のイメージを膨らませながら歌えるよう示されている。</p> <p>③リコーダーの指導事項がスモールステップで示され、階名ごとに写真で示されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>④和音のひびきに合わせた旋律づくりでは、4小節の旋律を作れるよう例が示されている。</p> <p>⑤日本や世界の音楽文化に親しめるよう示されている。（第2学年～）</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥日本古来の歌の学習と、世界の音楽の学習を比較しながら文化の良さに気付けるように示されている。</p> <p>⑦QRコードを読み取り、鑑賞ができるようになっている。タブレットの見方についての注意が常に示されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」と表し、要素を表すいろいろな言葉も明記して示している。（全学年）</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨感じ方の違いを表現できるように、QRコードで開くと書き込めるように示されている。</p>

教 芸	<p>第1の観点</p> <p>①入門期における「リズム」打ちの例が具体的な写真で示されている。数曲を例示することによって反復してリズム打ちをする例が示されている。</p> <p>②歌詞の解釈と歌い方の工夫が明確に示されている。</p> <p>③写真を用いて、リコーダーの各部の名称やリコーダーの種類等も示されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>④和音づくりをワークシートのスペースを取り、作成できるよう示されている。</p> <p>⑤日本や世界の音楽文化に親しめるよう示されている。（第3学年～）</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥日本の各地の音楽に着目させ、その調べ方について示されている。</p> <p>⑦QRコードを再生するとシンプルな音源を聞ける。リズムの記号で演奏できるよう示されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧音楽を形づくっている要素が振り返りのページにまとめて示されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨自分の感じ方や考え方等を深めていく場面が示されている。</p>
-----	--

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	図画工作
-----	------

発行者	総合的な所見
開隆堂	<p>第1の観点</p> <p>①各題材の目標を、資質・能力を表す3種類のキャラクターと文章で示している。また、学習のめあてに対応し、どのような資質・能力を身につけたか確認できるように問いかけることで、ふり返りの視点を示している。</p> <p>②全ての題材で、キャラクターの吹き出しに〔共通事項〕を視点として思考させるためのコメントや学習のめあてを示し、学びを促している。</p> <p>③全ての学年の全ての題材ごとに主に使用する用具や材料について、ページ左上に材料名や用具名をイラスト付きで示している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④各題材名の上又は下に、活動のきっかけとなる文を示している。（UDフォントの使用により、支援を要する児童にも読みやすい書体となっている。）また、全ての題材でQRコードから、タブレット端末等で導入動画と作品例を視聴できるように示している。</p> <p>⑤活動と関連した鑑賞の特設ページ「小さな美術館」を設定している。また、表現と鑑賞を関連付けて、学習を展開できる題材を設定している。</p> <p>⑥自分達の表現した作品を互いに鑑賞し、しっかりと対話している様子を写真で示している。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦全ての学年の項目において、題材を（造形遊び）（絵）（立体）（工作）（鑑賞）の5項目に分類して配列している。作品を作った後に、関連する鑑賞題材を配置している。また、就学前教育からの接続、中学校との接続やキャリア教育への対応を示している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧作品や造形活動について、発想・構想に関する発言やヒントを吹き出し等で示したり、作者の考え・感想を示したりしている。また、QRコード</p>

	<p>ドから、様々な映像や写真等を見ることができ、作品の作り方や道具の使い方等、学習内容を確認したり、ワークシートを使って発想や構想を広げたり学習を振り返ったりしている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨コミュニケーションや言語活動を重視した題材、共同で行うことを意図した題材が多く設定され、適宜話し合いの観点も提示しており、言語活動が充実する工夫をしている。また、各題材の左下に、「タブレットたんまつで見てみよう」というコーナーがあり、鑑賞カードや振り返りシートの型を利用することができたり、作品を見たりすることができる。それを用いて言語活動が充実するよう工夫している。</p>
日 文	<p>第1の観点</p> <p>①資質・能力の3観点を5項目（知識・技能・発想や構想・鑑賞・学びに向かう力、人間性等）に細分化し、育てたい力をより明確に示している。思考力・判断力・表現力等においては、発想や構想等、表現のめあてと、鑑賞のめあてを示し、表現と鑑賞を往還しながら活動できるようにしている。</p> <p>②ほぼ全ての題材で、「とくに大切なめあてのヒント」や「鑑賞のヒント」に〔共通事項〕を視点として思考させるためのコメントを示し、学びを促している。</p> <p>③全ての学年の全ての題材ごとに主に使用する用具や材料について、ページ番号横に材料名や用具名とイラストで示している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④各題材名の下に、活動のきっかけとなる文を示している。（ゴシック体が使用されている。）また、全ての題材で QR コードから、タブレット端末等で用具の使い方、作品例、仕組み等を視聴できるように示している。</p> <p>⑤鑑賞の特設ページ「教科書美術館」や「広がる図工」が、関連深い題材と連動させて活用することができるように設定している。また、表現と鑑賞を関連付けて、学習を展開できる題材を設定している。</p> <p>⑥身近な自然物や人工物等様々なものが写真で示されており、興味や視野が広がる。自分で実際に手で触れながら鑑賞している写真が面白さを強調している。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑦全ての学年の項目において、題材を（造形遊びをする活動）（絵に表</p>

す活動）（立体に表す活動）（工作に表す活動）（鑑賞する活動）の5項目に分類して配列している。鑑賞については、鑑賞のみの題材もあるが、基本的には全ての題材に鑑賞の活動を示している。また、1年生スタートカリキュラム（幼児期の遊びとの接続）を意識した題材や中学校への接続を意識した題材を設定している。

第4の観点

⑧作品や造形活動について、発想・構想に関する発言やヒントを吹き出し等で示したり、作者の考え・感想を示したりしている。また、題材ごとのQRコンテンツは、導入と展開、振り返りのそれぞれの場面で使え、児童の好奇心をかきたて、深い学へとつなげている。

第5の観点

⑨コミュニケーションや言語活動を重視した題材、共同で行うことを意図した題材が多く設定され、適宜話し合いの観点も提示しており、言語活動が充実する工夫をしている。また、各上巻には特設ページを設定し、作品を見て感じたことや考えたことを友友達と話し合う活動を示しており、言語活動の充実を促している。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	家庭
-----	----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①全ての題材で、学習の流れがステップ1からステップ3で示されている。それぞれにステップの学習のあと、ふり返りの問いかけがある。</p> <p>②ミシンの使い方について、「いつもたしかめよう」のページに、順序が示してある。言葉での説明と動画での説明がある。技能の定着を確認するための練習カードがある。上糸のかけ方の順序が、部分が拡大して表示してある。</p> <p>第2の観点</p> <p>③4つの視点を家庭科の窓から見える形として示し、題材ごとにどの視点や考え方で学習を進めていくのかを題材の冒頭で示している。</p> <p>④学年で学んだことを活かして実践していくことを狙いとしたページを設け、4つの視点で考えることを示し、どのように実践を進めていくかやり方を示している。また、夏休みわくわくチャレンジとして、学習したことを長期休業中に家庭で実践する場を設けている。</p> <p>⑤学習の最後に「深めよう」があり、学習したことを生活に生かすための実践例がある。5年生で8回、6年生で7回「深めよう」5年生の終わりと6年生の終わりに「深めよう」があり、1年間または2年間の家庭科の学習をふり返り、生活を工夫する場が設定されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥大題材の配列を組み替えることで、地域や学校の実態に応じた指導ができる構成になっている。活動例や実習例が豊富で、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるように設定されている。</p> <p>⑦各題材に、導入で活用できる「トライシート」が用意されている。導入段階での意見の可視化、整理を通して課題を発見させる。トライシートには、思考ツールが活用されている。</p> <p>⑧各教科や中学校との学習内容との関連について、統一したマークで示し、教科等名、学年、単元概要を示している。（34個）</p> <p>第4の観点</p> <p>⑨野菜の切り方について、写真、図、動画で示してある。実物大の写真がそれぞれの題材のページに示してある。右利き左利きの動画が、別々になっている。</p>

	<p>第5の観点</p> <p>⑩主に「活動 話し合おう」「活動 考えよう」「活動 調べよう」「活動 深めよう」のマークで示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。</p>
開隆堂	<p>第1の観点</p> <p>①全ての題材で、学習の流れ（めあて）が明記され、学習の進め方の文言とあわせて示してある。それぞれの学習段階に合わせて、めあてにチェック箇所がある。</p> <p>②ミシンの使い方については、上糸のかけ方の順序が番号で示してあり、チェック表もある。上糸のかけ方の全体的な流れが示してある。</p> <p>第2の観点</p> <p>③4つの視点をクローバーの葉で示し、題材ごとにどの視点から学習を進めていけばよいか冒頭で示している。</p> <p>④大きな題材をいくつか学んだあと、生活に生かし実践していくことを狙いとしたページを設け、4つの視点でどのように考えて実践していけばよいか吹き出しとともに示したり、課題解決のステップを例示している。</p> <p>⑤学習の最後に「生かす・深める」があり、学習したことを生活に生かすための実践例がある。5年生で10回、6年で9回「生かす・深める」で実践例が確認できる。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥5年生は、スモールステップで反復学習ができるよう基礎・基本の定着を図る題材が設定されており、6年生は5年生の学習した技能を生かした題材が設定されている。</p> <p>⑦2つの制作物を比較しながら、製作できるように見開きに2種類の制作例を提示してある。</p> <p>⑧各教科との関連に加え、安全教育、環境教育、消費者教育、キャリア教育など、様々な教育活動との関連が記載されている。（アイコン・マーク）（27個）</p> <p>第4の観点</p> <p>⑨野菜の切り方について、切り方の説明はそれぞれの題材のページに絵と動画で示してある。巻末で実物大の写真が掲載されている。右利き左利きの動画が、一つにまとめられている。実習の手順が横流れで示されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑩主に「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」のマークで示され</p>

	ているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。
--	--

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	保 健
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①導入は、絵や写真を見て「気づく・見つける」質問から入っている。</p> <p>②大切な栄養の情報は、イラストが多く、文章が少な目の説明となっている。生活の中に運動を取り入れると良い資料を、別資料として記載している。</p> <p>③実習の例示が文章と絵で行われ、自分で記述・チェックする形である。手当ての方法を理由とともに記入させている。実験では、写真とともにやり方を説明している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④学習の進め方や課題解決の過程が各単元の先頭ページ右上に示され、キーワードを書き込みなが児童が主体的に振り返ることができる仕組みになっている。</p> <p>⑤元導入で、写真をもとに自分の経験について振り返り、課題設定をする流れになっていて、「ステップ3 深める・伝える」「ステップ4 まとめる・生かす」で実生活・実社会につなげて考えられるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥単元全体の目標と項目ごとのつながりが、イラストで示されている。小單元ごとに4つのステップが示され、それぞれの学びに応じた資料が記載されている。</p> <p>⑦単元の終わりに「資料」として学習を広げたり深めたりする内容が、単元の一部の終わりに「発展」として発展的な内容が掲載されている。QRコードから資料が確認できる。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧ジェンダーに配慮したキャラクターを取り入れ、要所要所でQRコードを掲載し、動画やスライドを見て理解を深めたり、ワークシートや思考ツールを活用したりすることができるようになっている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨自分の考えを書いたり、話し合ったりする「深める・伝える」場面と、授業で分かったことや気をつけていくことを記述する場面がある。</p>

大日本	<p>第1の観点</p> <p>①ストレッチの体験をすることにより、課題を見つける流れになっている。「ここで学ぶこと」を初めの方に示してから、「調べよう」に進んでいる。</p> <p>②食育に関する情報は、写真1枚と多目の文章による説明となっている。運動の効果については、簡単に紹介している。</p> <p>③実習の例示が文章と絵で行われ、それをもとに手当てをどのように行うか記入させている。実験で、図と写真をもとに説明しており、QRコードからウェブサイトで実習の内容を確認できる。</p> <p>第2の観点</p> <p>④学習の進め方や課題解決の過程は、各ページの左端に示し、振り返りは、児童が今後の自分の生き方について、短い文章で記述するような仕組みになっている。</p> <p>⑤学習の進め方や課題解決の過程は、各ページの左端に赤文字で示されていて、「まとめ 生かそう 伝えよう」で実生活・実社会につなげて考えられるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥もくじと単元のはじめのページに、その単元でどのような学習をするのかを提示している。各単元の終わりに、単元の振り返りとして“〇年のまとめ”が設定されている。A4版にまとまっていて、1時間の内容が見開き1ページに納まるようになっている。</p> <p>⑦単元の終わりに「もっと知りたい」として発展的な内容が、単元の一部に「発展」として発展的な内容が掲載されている。ワークシート形式で記入欄がある。QRコードからウェブサイトで資料が確認できる。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧先生、ナビゲーター、児童のキャラクターを取り入れ、各単元の冒頭にQRコードを配置して関連する動画等をまとめて見ることができるようになっているとともに、児童の興味を引くようなQRコードも用意している。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨学んだことと身の回りのことを関連付けてよりよく生活する方法を考えて記述する「活かそう」という場面が設定され、行動面で気をつけることを記述する欄と環境面で気をつけることを記述する欄がある。</p>
大修館	<p>第1の観点</p> <p>①藤井聡太さんのインタビューから、課題について考える流れになっている。「課題をつかもう」の活動から「きょうの課題」につながっている。</p>

	<p>る。</p> <p>②食育の情報を、イラストと簡単な文章で記載し、バランスのよい食事を考える活動がある。運動の効果について、イラストや文章で説明し、運動や遊びの活動例を、多く記載している。</p> <p>③実習の例示が文章と絵で行われ、手当の基本を提示している箇所もあり、実習の振り返りが記入できる。QRコードから学習内容に応じた保健クイズを利用できる。「調べよう」や実験で、調べ方について多くの写真や図で説明している。</p> <p>第2の観点</p> <p>④学習の進め方や課題解決の過程は、各学習場面の先頭に目立つように示され、振り返りは、児童が今後の自分の生き方を短い文章でまとめるとともに、その理由も記述するような仕組みになっている。</p> <p>⑤単元導入で、イラストをもとに1年生のころと5年生のころを比べる活動があり、単元導入で、イラストをもとに1年生のころと5年生のころを比べる活動がある。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥単元と学びを広げたり、深めたりする資料の場所が分かりやすく示されている。単元のはじめに有名な人のインタビューで興味・関心をもてるようにしている。それぞれの単元で「課題をつかもう」「話し合おう」「調べよう」「考えよう」の順番に提示され、必要な資料が記載されている。</p> <p>⑦単元の終わりに「もっと学びを広げよう！深めよう！」として発展的な内容が、単元の一部に「発展」として発展的内容が掲載されている。ワークシート形式で記入欄がある。QRコードから保健クイズや、別のHPでの資料確認ができるようになっている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧健康に関する様々な職業に就く人々をキャラクターとして取り入れ、各単元末にクイズとしてQRコードを掲載し、所々に様々なコンテンツを見ることができるQRコードが用意されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨授業によって異なる内容の「まとめ（生かそう・伝えよう）」という自分の考えを記述する場面が設定され、授業のまとめでは、気をつけたい場所を記述する欄と、これから気をつけることを記述する欄がある。</p>
<p>文教社</p>	<p>第1の観点</p> <p>①導入では「動機付け」（考えたり、調べたりする活動）から始まるようになっている。初めに「学習のめあて」とともに「本時のMenu」が</p>

	<p>示されている。</p> <p>②育ちざかりに必要な栄養の情報は、イラスト、文章による説明となっている。情報量が多い。適度な運動と生活の中で続けられる運動の紹介と、体への良い影響について記載している。</p> <p>③文章での記載が多く、実習の例示も多くて絵やポイントで注意を促している箇所もある。手のよごれの実習について、多くの写真や図で説明している。QRコードから手のあらい方の動画を確認できる。</p> <p>第2の観点</p> <p>④学習の進め方や課題解決の過程が、各単元の先頭ページ右上に示され、振り返りは「もう一歩先の自分へ」というネーミングで、今後の生き方を文章で記述するような仕組みになっている。</p> <p>⑤単元導入で数枚のイラストをもとに、成長の仕方が示されていて、「Mission もう一歩先の自分へ」で実生活・実社会につなげて考えられるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥単元のはじめに単元全体の学習課題が示されている。各単元の終わりに、単元の振り返りとして“わたしの〇〇宣言”が設定されている。小單元ごとに3つのMissionがある。Mission1,2の中に2つのStageがあり、それぞれに応じた資料が記載されている。</p> <p>⑦単元の途中や終わりに、発展的な内容として「もっと知っておこう課」で関連する情報のQRコード、「もっと考えよう課」で発展的内容が掲載され、単元の一部に「Episode」として学習に関連する情報が掲載されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧児童や先生、仙人など多くのキャラクターを取り入れ、もっと知りたい情報のリンク先や著名人からのメッセージをQRコードで示している。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨今後どのようにしていきたいかを考えて記述する「もう一歩先の自分へ」という場面があり、授業のまとめの場面もで、これから気をつけていきたいことを記述する欄があり、どちらにも記述例が示されている。</p>
光文	<p>第1の観点</p> <p>①4コマまんがを通して、課題を把握できるようになっている。資料を活用して振り返る活動をすることで、自然な課題設定がなされている。</p> <p>②食育に関する情報は、イラストと写真と文章をバランスよく活用して、簡潔にまとめられている。日常生活の運動・運動の種類と時間（運</p>

	<p>動量)について記載している。また、運動と遊びの例を別資料で記載している。</p> <p>③実習の例示が文章と絵で行われ、事例を通して学んだ後で、学びを生かせる内容を考えて記入させる形である。「調べよう」で、疑問文の課題とともに写真や図で実験が説明されている。QRコードから動画や資料を確認できる。</p> <p>第2の観点</p> <p>④学習の進め方や課題解決の過程は、各学習場面の先頭に目立つように示され、振り返りは、児童が今後の自分の生き方を短い文章でまとめるとともに、その理由も記述するような仕組みになっている。</p> <p>⑤単元導入で数枚のイラストがあり、その場面のようなことはありましたかと問いかけ、導入としている。「学んだことを生かそう」で実生活・実社会につなげて考えられるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑥もくじに学習内容の項目と学習課題につながる内容が掲載されている。単元のはじめに4コマ漫画でその単元で何を学ぶか考えさせている。「見つけよう」「調べよう」「話し合おう」「生かそう」の4つの順番でそれぞれに必要な資料が記載されている。</p> <p>⑦単元の終わりに「さらに広げよう深めよう」として発展的な内容が、単元の一部に「発展」として発展的内容が掲載されている。QRコードから資料を確認できる。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑧児童2人、先生2人と4人のキャラクターを取り入れ、学習に役立つウェブサイトにつなぐためのQRコードが毎単元の冒頭と所々まとめに配置されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨学んだ内容と身の回りのことを関連付けて自分の意見を書く「学んだことを生かそう」という場面が設定され、行動面と環境面について記述してまとめる欄がある。</p>
学 研	<p>第1の観点</p> <p>①自分の体験を思い起こすこと（ふり返り）で、課題に迫りやすくなっている。学習課題が、太字で大きく示されている。</p> <p>②食事のバランスガイドの情報は、イラストと写真、文章で簡潔にまとめられている。よりよい発育、発達のために、運動と食事、休養・睡眠のそれぞれに目標が立てられるようにしている。</p> <p>③文章を書き込ませる部分が多い。実習の例示が文章や絵で行われ、チ</p>

チェック欄もある。実習後の気づきや振り返りを記入させる形である。QRコードから実習の動画を確認できる。「科学の目」で、写真やイラストを使って実験が説明されている。

第2の観点

④学習の進め方や課題解決の過程は、先頭ページの左上に時計のような形で示され、児童が今後実行したいことと学習の進め方に対する振り返りを、文章で記述するような仕組みになっている。

⑤単元導入で、写真や絵をもとに今までの経験を振り返る活動がある。「ここまで学習したことを生かしてどんなことができそうか書いてみましょう」「学習の進め方について自分で工夫したことや、もっと学習したいこと、なるほどと思ったことを書いておきましょう」で実生活・実社会につなげて考えられるようになっている。

第3の観点

⑥他社に比べてもくじが詳しい。単元のはじめに、その単元で何を考えたり、話し合ったらよいかを示されている。学習課題を持たせるような吹き出しが掲載されている。小単元のはじめに「予想しよう」でイラストを提示し、「1資料を読み取る」「2原因を話し合う」「3学びを生かす」の3つ順番で、それぞれに応じた資料を記載されている。

⑦単元の終わりに「ほけんのはこ」として発展的な内容が、単元の一部に「もっと知りたい・調べたい」として発展的内容が掲載されている。

第4の観点

⑧児童、担任、養護教諭のキャラクターを取り入れ、毎単元の終末部にシートが読み込めるQRコードが配置され、所々に様々なコンテンツを見ることができるQRコードが用意されている。

第5の観点

⑨学習の流れの中に、〇〇について話し合う場面が設定されている。授業のまとめの場面では、もっと学習したいことを記述する欄がある。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	英語
-----	----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①単元のはじめのページに簡単な言葉で目標が提示されており、その目標を達成するための小単元の目標が設定されている。</p> <p>②習得させたい表現につながるテーマの small talk が設定されている。音声による表現の習得から、文字による表現の習得につながる構成になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③会話を聞き取る際の視点が明確に示されている。単元のゴール時に話したいことを事前に考え、導入の際に記入する「Your Plan」の欄がある。</p> <p>④小単元ごとに振り返りができるようになっており、学期ごとにこれまでに学習したことを振り返る「Check Your Steps」が設定されている。できるようになったことをチェックできるよう、「My Picture Dictionary」に「CAN-DOの樹」がある。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤各活動が5領域のどれにあたるかをマークで示している。どの単元でも見る・聞く→話す→読む・書くといった配列になっている。1時間の授業でどこまで達成すべきかが分かりづらい。</p> <p>⑥言語活動のテーマが自分自身のことから身の周りのことへと広がっていく流れになっている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦登場人物が泣いていたり、亡くなった方を紹介したりしている部分がある。QR コードの位置が分かりにくい。QR コードで字幕付きの映像が見られるものがあるが、デジタルコンテンツの目次の部分が英語表記のみで、児童にとってどこを見ればよいか分かりづらい可能性がある。調べ学習に使える動画がある。</p> <p>⑧2年間で使う表現は「My Picture Dictionary」に別冊のまとめられている。巻末には学習で使うカードが付いている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨単元末の「Enjoy Communication」では、単元で習得したことを活用する場面が設定され、学期ごとの「Check Your Steps」では、これまで</p>

	<p>に学習したことを活用する活動が設定されている。一部、誰になんのために伝えることなのかが分かりづらい単元がある。</p> <p>⑩目的・場面・状況が分かるよう、イラストや写真とともに言語活動例が紹介されている。一部、「何のために伝えるのか」が分かりづらい部分がある。</p>
開隆堂	<p>第1の観点</p> <p>①単元のはじめに単元の目標が提示されており、学習を進めるにあたり小目標も記載されている。巻末に can do list があり、観点別で振り返りができるように設定されている。</p> <p>②Let's play →Activity の順番で必要な表現を練習した後、伝え合う活動ができるようになっている。Let's play ではゲームで表現に慣れ、Activity でお互いに伝え合う活動が組み込まれている。単元に必要な語句や表現の練習を音声や映像を使って言語活動ができる構成になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③【単元の導入において、会話場面や状況を明確に示している。聞き取りの視点も示されている。</p> <p>④教科書の最終ページに「CAN-DO チェック」として、3段階での自己評価と記述によってふりかえる欄がある。振り返る視点が領域ごとに「わかる」と「使える」に分けられている。1ページに1学期分（2つ～3つ）の単元の振り返り表が掲載されている。大單元ごとに「Let's Check」としてこれまでの学習をふりかえる問題と、「Interview」として先生と会話をして学習内容を確認する場が設定されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤聞く活動から話す活動への流れで言語活動が構成・配置されている。また、音声で十分に慣れ親しんだ英語表現と文字とを結びつけるために単元の後半に読む活動・書く活動が設定されている。</p> <p>⑥児童自身が経験したこと等が少しずつ詳しく伝えられるように段階的に言語活動を導入し、最終的に児童が伝えたい事柄をスピーチできるようになっている。</p> <p>Activity 3：思い出アルバムにそえる動画をとるために、小学校生活の思い出についてスピーチをしましょう。※スピーチを作成するまでのまでの学習の流れが詳しく説明してあり、イメージしやすい。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦同一の紙面に2種類のタッチの違うイラストがある。</p> <p>第6学年 Lesson4 「My Summer Vacation」 p.58 で、「海を渡った偉人</p>

	<p>たち」として津田梅子、渋沢栄一、北里柴三郎が、海外で学んだエピソードが紹介されている。</p> <p>⑧5、6年で使う表現がそれぞれ別冊「word book」にまとめられている。「word book」は、習得した表現を記入できる欄がある。巻末に学習に使うカードがついている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨単元ゴールの言語活動に向けて、言語材料に出合い、指導者のはたらきかけによってそれらを実際を使ってやり取りを行うという流れが設定されている。また、毎時に言語活動 Let's Try、Activity が設定されている。そして、3回の Check Your Steps において、習得した知識技能を活用する「聞くこと」「話すこと」「話すこと〔やり取り〕」「書くこと」の活動を設定している。</p> <p>⑩Activity2 のペアやグループでのやり取りの場面では、よい聞き手を育てるために、学習内容に合わせ、相手の話を聞いて「褒める」「質問する」「励ます」表現例を紹介するコーナーが設定されている。</p>
三省堂	<p>第1の観点</p> <p>①単元のはじめに単元の目標が提示されている。また、小目標も記載されている。</p> <p>②単元ごとに HOP→STEP→JUMP という流れになっており、単元のゴールに向けてスモールステップの学習活動になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③単元の導入において、コミュニケーションを図るの場面設定や状況が明確なゴールが設定されている。</p> <p>④単元末に「ふりかえり」として3段階で自己評価する欄があり、できたことや工夫したこと、友達の良さを記述できる。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤各活動が4技能5領域のいずれに当たるかが明記されている。語句や表現をインプットしてから、聞く・話す活動中心の言語活動が設定されている。</p> <p>⑥自己紹介や地域、思い出等、伝えたいという思いをもって取り組むことができる言語活動が段階的に導入している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦写真に比べてイラストの色が薄い。多くの子どもたちの持ち物としてランドセルが描かれ、女性の髪が長く、男性が短めである。</p> <p>⑧巻末に学習に使うカードがついている。小カードはレッスンのどの活動で使用するのかがわかりにくい。</p>

	<p>第5の観点</p> <p>⑨3つの Unit のゴールとして Jump が設定されている。また、Jump Plus が発展活動として示されている。</p> <p>⑩Step-up や JUMP では、ペアワークやグループワークをしながら、自分の伝えたいことを伝える活動が設定されている。</p>
教 出	<p>第1の観点</p> <p>①各単元の冒頭に、簡単な言葉で目標が提示されている。</p> <p>②無理のない活動量になっている。聞く活動から発信する活動へと、スモールステップで取り組む構成になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③単元の導入において、会話場面や状況を示している。また、単元のはじめにゴールが示され、「think」として、単元のゴールに話したいことを記述する欄がある。</p> <p>④各単元に「ふりかえろう」として、3段階で自己評価する欄がある。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤単元導入部分では、映像を見たり歌を歌ったりする活動が設定されている。</p> <p>⑥児童自身が経験した事柄や思いを伝え合う言語活動が仕組まれている。相手の考えを記述する欄がある。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦5つの領域に関連した活動等の種類を示すマークやキャラクターを設定し、紙面に明示している。音声や動画等が視聴できるQRコードを、活動ごとに数か所示している。</p> <p>⑧巻末の「My Word Bank」では、ジャンルごとに4線の上に書かれた単語を示している。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨単元末の Final Activity において、習得した知識及び技能を活用する「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動が設定されている。</p> <p>⑩話す内容やコミュニケーションについて気づきや思考を促すコーナーや、ペアやグループでの活動を多く設けている。</p>
光 村	<p>第1の観点</p> <p>①単元の目標だけでなく、段階ごとの小目標が記載されている。</p> <p>②単元末に目指す児童の姿が明確に記載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③単元の導入において、会話場面や状況を明確に示している。聞き取る観点も示されている。</p>

	<p>④各単元末に「ふりかえろう」として、できたことや工夫したことなどを4段階での自己評価と記述によって振り返ることができる。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤主な活動内容が紙面には示されており、4技能5領域を組み合わせたものも設定されている。</p> <p>⑥少しずつ詳しく伝えられるように段階的に言語活動を導入し、最終的に児童が伝えたい事柄をスピーチできるように設定されている。スピーチを聞いている人が質問をする言語活動も設定されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦鮮やかな色合いで読みやすい。人種やジェンダー、ハンディーキャップ等に配慮されており、時代の流れに合っている。QRコードは主に教科書の見開き右上に記載されている。</p> <p>⑧単語はジャンルごとに色分けされている。6年生の Picture Dictionary には、5年生で記載のあった単語は記載されていない。2次元コードから確かめられるようになっている。5年生も、6年生のものを調べることができる。3・4年生で学習した単語には足跡マークが記載されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨単元末の Jump!において、習得した知識技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動を設定している。また、3回の「世界の友達」において、「聞くこと」「読むこと」の活動、「You can do it!」において、「話すこと」「書くこと」の活動を設定している。</p> <p>⑩児童が「伝えたい!」と思えるように、コミュニケーションの目的や場面、状況が明確に示されている。また誰が何のために伝えるのかという視点も示されており、自分の考えや気持ちを表現する活動を Unit の中心に設定されている。</p>
啓林館	<p>第1の観点</p> <p>①単元のはじめに目標が提示されている。step1 step2 step3 と3段階の小目標が提示されている。</p> <p>②各単元が3ステップで構成されており、無理のない活動量になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>③単元の導入において、コミュニケーションを図る場面や状況を明確に示している。「どんな場面で、どんなことを話しているか想像しましょう」等、聞き取る視点を示している。</p>

④単元末に **look back** として、できるようになったことにチェックをしたり、実際に使える場面を考えたりする欄がある。大単元のごとに **REVIEW** として、これまでの学習を活かした言語活動と振り返る場が設定されている。

第3の観点

⑤各活動が4技能5領域のいずれに当たるかを明記している。聞く活動が多く配置されている。

⑥興味をもって取り組むことができる言語活動や体験した事柄について伝え合う言語活動になっている。尋ねた相手の答えを書く欄がある。

第4の観点

⑦イラストでの人物の描き方が漫画調になっている。5・6年の表紙の色合いが区別しやすい。文字の量が多く、挿絵が小さい印象がある。QRコードを使って **Activity** のヒントを見ることができる。

⑧巻末の **Word List** に、イラスト付きで単語がまとめられている。主に関連する単元も記載されている。

第5の観点

⑨単元終末の **Step 3** において、習得した知識技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動を設定している。また、3回の **REVIEW** において、習得した知識技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動を設定している。

⑩ **Activity** では、いっしょに調べたり、話し合ったりできる話題を取り上げ、ペアやグループの活動場面を多く設定している。6年生：Unit 2 「Welcome to Japan.」の単元では、季節ごとに外国の人が日本で楽しめるものを、グループで話し合っ、アイデアを発表する活動が設定されている。

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	特別の教科 道徳
-----	----------

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①イラストで授業の流れを示し、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしている。</p> <p>②教材文の終わりに、「考えよう」と「つながる、広がる」に分けて発問を記載している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③すべての学年で、「問題を見つけて考えよう」のページを設け、学習過程の例を示している。</p> <p>④すべての学年で、「演じて考えよう」のページを設け、教材に関連した体験的な学習を通して考えることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤下学年では「A 主として自分自身に関すること」と「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の教材、上学年では「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の教材が多い。</p> <p>⑥各学年でとびらページ・教材2つ・コラムで構成された「いじめユニット」を設けている。また、各学年で情報モラルに関する教材を設けている。SDGsに関する教材を高学年で取り扱っている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦目次にユニットを設定し関連項目を配置し、それぞれのユニットに考えるポイントが示されている。1つの価値項目について深められる。教材一覧表が載せてあり、「視点」「内容項目」「主題名」「関係するテーマ」「他教科」との関連がある。</p> <p>⑧QRコードは全教材文にある。教材文の後にもQRコードがついている教材がある。どの教材文にも3枚以上のイラストや写真が載せてある。自然関係のものには写真が使われている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨巻頭の「どんな学びをするのかな」や「ちょっと話し合ってみよう」の中に、考えを伝え合う方法を示し、教材の終わりの「考えよう」の中に、対話するための問いの例示がある。</p> <p>⑩巻末に、学期末に心に残った題名と内容を記述する欄や道徳で学んだことを振り返って記入する欄を設けている。</p>

教 出	<p>第1の観点</p> <p>①道徳の学びへの意識を高めながら、見通しを持って学習に取り組めるように「学びのガイダンス」を設けている。</p> <p>②冒頭で主題に関わる投げかけを行い、教材文の終わりに「考えよう」「深めよう」「つなげよう」に分けて発問を記載している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③すべての学年で、「問題を解決しよう」のコーナーを設け、学習過程の例を示している。</p> <p>④すべての学年で、「やってみよう」のコーナーを設け、教材に関連した体験的な学習を通して考えることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤全体的に「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の教材が多い。学年が上がるにつれて「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の教材数が増えている。</p> <p>⑥全学年で「いじめ」「情報モラル」を重点テーマとして、ユニットを設定している。また、SDGsに関する教材を用意している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦目次にユニットを設定し、関連する教材文を並べ2時間続きで1つの価値項目について学習するようになっている。ユニット数が多い。巻末に「内容項目」「主題名」「教材名」「他教科との関連」「SDGsとの関連」が載せてある。</p> <p>⑧QRコードはどの教材文にもある。後にもQRコードがある教材文がある。どの教材文にも2枚以上のイラストや写真が載せてある。動きや表情のわかるイラストが多い。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨巻頭の「道徳ではこんな学び方をするよ」の中に活動のポイントを示し、教材の終わりの「考えよう 深めよう」の中に、対話するための問いの例示がある。</p> <p>⑩教材の終わりに学習を振り返ってマークや言葉で書く欄を設け、巻末に、心に残った教材の記述や1年間の学習を振り返るページを設けている。</p>
光 村	<p>第1の観点</p> <p>①児童がより主体的に道徳の学びに取り組めるよう、教材への向き合い</p>

	<p>方のヒントを示している。</p> <p>②冒頭の教材名の下で発問で、主題に関わる投げかけを行い、教材文の終わりに「考えよう・話し合おう」「つなげよう」「考えるヒント」に分けて発問を記載している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③特に5・6年生で、「考えよう・話し合おう」「つなげよう」のコーナー等を設けるとともに、学習過程の例を示している。</p> <p>④すべての学年で「演じて考えよう」のページを設け、教材に関連した体験的な学習を通して考えることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤全体的に「A 主として自分自身に関すること」、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の教材がバランスよく掲載されている。</p> <p>⑥2つの教材とコラムでユニット化した「いじめをゆるさない心」が設定され、関連してソーシャルスキルトレーニングのページが設けられている。情報モラルは、教材とコラムをセットで学べる「情報と向き合う」を設けている。SDGs に関する教材は、6年間で17の目標全てに触れられるよう設定している。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦目次に4つのユニットを設定し、学習のまとまりを示し続けて同じ価値項目について学習できるようにしている。巻末に「内容項目」「主題」「教材名」「他教科との関連」「現代的な諸課題との関わり」が載せてある。</p> <p>⑧柔らかいタッチの絵が使われている。比較的多く写真が使われている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨巻頭の「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」の中に、話し合いのポイントや例等を示している。教材の終わりの「考えよう・話し合おう」の中に、対話するための問いの例示がある。</p> <p>⑩学習のまとまりごとに、自分の考えをまとめる欄があり、巻末折込みに、学習を振り返って自己評価をシールで貼ったり学習記録を記入したりする欄を設けている。</p>
日 文	<p>第1の観点</p> <p>①児童みんなが授業に参加でき、一人一人のよさが引き出され、豊かな学び合いが実現できるよう、学び方をわかりやすく示している。</p>

	<p>②冒頭で主題に関わる投げかけを行い、教材文の終わりに「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」に分けて発問を記載している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③すべての学年で、「ぐっと深める」のページを設け、問題解決的な学習の手法を具体的に示している。</p> <p>④すべての学年で、「ぐっと深める」のページを設け、体験的な学習の手法を具体的に示して考えることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤下学年では「A 主として自分自身に関すること」と「C 主として集団や社会との関わりに関すること」、上学年では「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の教材が多い。学年が上がるにつれて「B 主として人との関わりに関すること」の教材数が増えている。</p> <p>⑥はじめを直接的、間接的に扱った教材とコラムを組み合わせ、「人としての関わりユニット」を設定している。また、コラム「心のベンチ」を設定し、情報モラルや SDGs について学ぶことができるようになっている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦ 目次にユニットを設定し、学習のまとまりを示し続けて学習できるようにしている。3教材文連続のものもある。巻末に「内容項目」「教材名」「主題名」「テーマ」「他教科との関連」「作者・出典」を掲載している。</p> <p>⑧QR コードはどの教材文にもある。柔らかいタッチの絵が使われている。写真の使用場面が多い。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨巻頭の「どうとくの学び方」の中に、話し合いの仕方を示し、教材の終わりの「考えてみよう 見つめよう・生かそう」の中に、対話するための問いの例示がある。</p> <p>⑩学習のまとまりごとに、自分の考えをまとめる欄があり、巻末の「見つけた！ここにもどうとく」として、1年間の学習を振り返るページを設けている。</p>
光 文	<p>第1の観点</p> <p>①児童が見通しをもって学び、問を見つけ、考えを深め、授業後へと広げていくという一連の流れを示している。</p> <p>②冒頭の教材文の下の発問で、主題に関わる投げかけを行い、終わりに「かんがえよう」「まとめよう」「ひろげよう」として発問を記載している。</p>

	<p>第2の観点</p> <p>③すべての学年で、オリエンテーションの中で道徳と日常生活をつなぐ流れを示し、各教材で「かんがえよう」「まとめよう」「ひろげよう」のコーナーを設け、学習過程の例を示している。</p> <p>④すべての学年で、「みんなでやってみよう！」のページを設け、実際の問題場面を想定した体験的な学習を通して考えることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>⑤重要課題として「いじめ、命、学年独自主題」を掲げており、Dの教材が多い。</p> <p>⑥「いじめを生まない心」を重点主題とし、とびらページと教材が掲載されている。全学年に情報モラルのコラムを設けている。ジェンダーについての教材も掲載されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦ 目次にそれぞれの内容項目に従ってユニットが設定してあるが、何についてかまでは記載がない。巻末には「内容項目」「教材名」「現代的課題」「他教科」「関連性のある価値項目」が載せてある。</p> <p>⑧内容に合わせて、柔らかいタッチ・明るい配色等の絵が使われている。比較的多くの写真が使われている。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨巻頭の「話し合ってみよう」の中に、「ことばのカード（対話ツール）」を例示して話し合いの仕方を示し、教材の終わりの「考えようまとめよう ひろげよう」の中に、対話するための問いの例示がある。</p> <p>⑩巻頭に、ノートのとめ方や振り返りの書き方を示し、巻末折込みに、「まなびの足あと」として、授業を振り返るページを設けている。</p>
学 研	<p>第1の観点</p> <p>①児童の発達段階に合わせた書き方で道徳の学習の進め方を示している。</p> <p>②教材文の終わりに「考えよう」として発問を記載している。</p> <p>第2の観点</p> <p>③すべての学年で、「深めよう」のページを設け、学習過程の例を示している。</p> <p>④すべての学年で、「心のパスポート」のページを設け、教材に関連した体験的な学習を通して考えることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p>

⑤「いのち」を最重要テーマとして、内容項目「生命の尊さ」の教材を全学年で3本掲載している。

⑥いじめ防止に関する教材を配置している。（その教材には「いじめ防止マーク」が掲載されている。）情報モラルを系統的に学習できる構造となっている。SDGsに関連する教材を取り扱っている。

第4の観点

⑦目次にユニットが作ってある。他社に比べてユニット数が少ない。巻末に「内容項目」「教材」「主題名」「デジタルコンテンツ」が載せてある。

⑧場面の感じにあったタッチの絵が使われている。全体的に色が薄い。写真と絵を織り交ぜて多くの教材文で使われている。

第5の観点

⑨巻頭の「どうとくの学習が始まるよ」の中に、考えを進める仕方を示し、教材の終わりの「考えよう」の中に、対話するための問いの例示がある。

⑩学習のまとめりごとに、自分の考えをまとめる欄があり、巻末に、「つなげよう ひろげよう」として、1年間の学習を振り返るページを設けている。